

平成22年度
第4回 羽黒地域審議会
会議録（概要）

期 日 ： 平成23年2月3日（木）

場 所 ： 羽黒庁舎3階 集会室

平成22年度 第4回 羽黒地域審議会会議録 (概要)

○日 時 平成23年2月3日(木) 14時00分～

○場 所 羽黒庁舎3階 集会室

○出席委員(順不同)

林 茂生、太谷 眞一、土岐 智子、高田 志郎、寒河江健二、山田 鉄哉、
斎藤 一、山田 勝実、山口 平、本間 信一、天野 俊秀、庄司 祐子、

○欠席委員

金野 信勇、加藤健次郎、島津 慈道、阿部 良一、富樫 篤、星野 博、
佐藤 繁明、梅津 久美

○市出席者

羽黒庁舎 支所長 真田 昭良、次長兼総務課長 佐藤 茂
市民福祉課長 榎本 光男、健康福祉主幹 田村 廣実、産業課長 加藤 耕、
観光商工室長 五十嵐 満、建設環境課長 丸山 武、教育課長 五十嵐眞一、
総務課主査 佐藤 潤到、総務課係長 観世 安司、総務課主事 成沢あかね、
総務課主事 長瀬 陽彦、総務課主事 茂木 政信
本 所 教育次長 森 博子、教育委員会参事 佐藤 孝明、学校教育課長 栗田英明、
学校教育課主査 本間 明、地域活性化推進室長 吉住 光正、地域活性化推
進室係長 粕谷 一郎

○次 第

- 1 開 会
- 2 あいさつ
- 3 報 告
(1) 学校適正配置検討作業について
- 4 協 議
(1) 協議テーマ『観光地羽黒の更なるステップアップを目指して』について
(2) その他
- 5 閉 会

【会議の概要】

- 1 開 会 (14時00分) 佐藤次長
- 2 あいさつ 寒河江会長
- 3 報 告
(1) 学校適正配置検討作業について
教育委員会より学校適正配置検討作業について報告

(質疑応答)

(天野俊秀委員)

私は今羽黒四小地域に住んでおり、複式が発生していて一番危ないグループに入っているわけです。仮にこのスケジュールでいくと、学校の統廃合がすぐ目の前に見えてくるのですが、そうすると、今6集落で地域のコミュニティを作っておりそれ自体には今は触らないと言われても、子どもたちが行く学校区の方に当然地域も合体されていくと思う。

これから先の時代は地域がさらに結束力を固め、その地域でお互いに暮らしあうという力をつけていかないと難しい時代になってきているが、学校の統廃合で、地域のつながりが希薄になっていくのではないかという心配がある。

もう一つ、学校の児童数、規模のバラツキですが、羽黒で4校あわせて4百何人のところ、朝陽六小にいたっては、8百何人と羽黒地域の倍も一校にいる。そのバラツキの問題がなぜ解消できないのかといえ、その地域に住む人はその地域にある学校に行かなければならないという厳密なものがあるからではないか。例えば、小規模校には小規模校の良さというものがあり、大規模校の中で弾き出される、または問題を抱えている、そういう生徒を小規模校で受け入れられるといった、いわゆる市内の学校であれば行き先として選択できるというシステムがあれば、もう少し数字的に解消できるのではないかという気もします。事実、私の子どもは鶴岡に住んでいた時、傘を10本ぐらい壊されるぐらいいじめにあって、それで羽黒四小に来て、その当時は60人、6クラスあったのですが、こちらに来て非常に元気になって助かったという思いがしています。親が引っ越せばできるわけですが、大規模校では合わない人たちがうまく学校移動することでなんとかならないのかということです。ただ数を合わせて平均化しよう、一番少ないところをどっかとくっつけちゃえ、というのは、よほど予算的に苦しければ違うでしょうが、地域とのつながりという部分などでは、やはり相当準備期間を設ける必要があるのではないかと思います。

(学校教育課 栗田課長)

まず、第一点目に、地域のコミュニティというのは当然学校が建っている地域の状況とあわせて、地域との関わりがとても大きなものであるということは、私どもも十分感じております。そういう意味で、最初から結論ありきではなく、地域の皆さまからご意見をいただきながら、学校のあり方について今後検討いただくということで、一律に結論を出すということは考えておりませんし、十分地域の皆さまに情報を提供させていただいて、また地域の皆さまからご意見をお聞きしながら進めていきたいと考えております。

小規模校ばかりに目がいってしまうわけですが、大規模校についても当然課題はございます。特に町内会の境目等について課題を抱えている学校も何校かございますので、そこについても今後鶴岡市全体の適正配置検討委員会の中の課題として、次期以降に検討していきたいと考えております。

また、大きな学校だとなかなか溶け込めないが、小さい学校に来て、地域の皆さんから受け入れられて、とてもいい環境で学んでいるというお子さんがいることも認識しておりますし、小さな学校にもいい部分がたくさんあると思っております。ただ、具体的な部分で今のようなお話しを進めていくには、例えば札幌にはどこの地域からも行けるような学校、人数の少ない学校があるわけですが、一つの課題として鶴岡市の場合は、札幌などと違って、交通の便がなかなか難しいという面があると考えております。今の段階では、学区ということで設定させていただいており、今いただいた意見につきましては今後考えていきたいと思っております。

4 協 議

(1) 協議テーマ『観光地羽黒の更なるステップアップを目指して』について

佐藤次長が、協議テーマについてこれまで出された意見を集約した具体的な提案を紹介し、今後の地域審議会の進め方について説明した。

(質疑応答)

(高田志郎委員)

私は交通案内板が少ないということで提案させていただきたいと思います。私は大東保育園の近所で通称“馬走り小路”というところに住んでおりますが、よく車が手向バイパスから保育園を通過して、バス通りを乗り越して、つきあたりまで入ってきます。こういうことが、年に何回かあります。そこで、保育園の辺りに、国道47号線立川方面とか鶴岡方面とかいうような立派な標識を建ててもらおうと、ああいう間違いがなくなるのではないかと思います。

それから、直接観光には関係ないのですが、手向地区の安協でも何十年も前から取り上げているらしいのですが、蝦夷館公園の上の電柱です。景観も本当に悪いです。羽黒山の方に向かって走ってきた道路の中央ではないのですが、そこに電柱がありまして、交通にも邪魔になるので、できれば市のほうで移動していただければありがたいと思います。

(五十嵐室長)

観光客が間違わずに宿坊街や羽黒山の随神門の方に行く、あるいは鶴岡方面に行くといった誘導については、今支障があるということですので、どのような看板が良いのかも合わせて検討させていただきたいと思います。

(丸山課長)

蝦夷館公園の上の電柱のお話でしたが、羽黒電気から上は現在市道になっていますが、前はその部分も県道でした。それで、前の経過を県に聞いてみますと、できれば民地のほ

うにお願いしたいということでお話した時期があったということです。それで、同意いただいた部分は民地に電柱があり、同意していただけなかった部分については、道路上にあるという経過のようです。また、PTA からの要望にも同じようなお話がありましたが、民地に移設することには、地域の合意というのが課題になっているのかなと思います。

(本間信一委員)

協議テーマにつきましては、焦点が少しずつはっきりしてきたかなと思います。それで、ちょっと確認なのですが、平成 23 年度中に市長のほうに提言するということでよろしいでしょうか。

(佐藤次長)

協議テーマ『観光地羽黒の更なるステップアップ』につきましては、これまで小テーマを設けながら、それぞれ意見をいただいていたわけですが、このテーマにつきましては、平成 23 年度も引き続きこの地域審議会で、さらに掘り下げていくような形でご意見を頂きながら、最終的には市長に答申するということになるかと思っています。

(本間信一委員)

わかりました。当初は今年度中ということで、気持ちの上で急ぐ部分があったかと思うのですが、23 年となればもう一年ありますので、もう少し掘り下げて議論できるのかなと思っております。

それで、先ほど地域課題調査事項についての説明を受けたわけですが、全国各地からおいでになっているということで、羽黒山は非常にメジャーな所、すごい所だとあらためて感じたところです。

もう一点は、今は出羽三山のみならず、映画村の関係についても、土日なんかは非常に交通混雑が起きるほどの方々がおいでになっていますので、もう少し滞在してもらいな、そんな工夫も必要なのではないかなと思っています。また、そういう人たちは、それぞれ観光はしているのだと思いますけども、なかなかつかめない状況ですので、アンケートをとるなどして、そこらへんも一つ来年度にでもお願いできればと思います。

それから、資料の 6 ページの観光周遊ルートの整備についての中の、テーマ別観光ルートの整備の「②「食事処」「お土産」「食べ物」等を紹介するパンフレットの作成」について若干申し上げたいと思います。やはり他から来る人からみれば、当然観光というものは、その地域の有名なところを見たいというのが大きなテーマになっているわけですが、やはり昼食べたとか、夜、あるいはおやつだとか、いろんな面で食べ物については非常に関心があるというように見えています。そうした時に、今いろんなところでグルメブームとか、ブームはずっと続いているのかもしれませんが、B 級グルメだとか、いわゆる食に対する関心が高くなっているということでありますので、このアンケートの中にも山形

県にはおいしいものがいっぱいあるというようなことですが、具体的に何なのかとなった時にいま一つ出てこないような、「ごま豆腐」は地域でもうまいものだと感じていますけども、あとは米については今年度非常に有名になった「つや姫」について、例えば羽黒の食堂ではつや姫を使用するようにして、ステッカーでも貼って宣伝に努めるといった工夫も必要ではないかと思っています。

それから、私は農業をやっているものですから、地域の活性化なりを考えたときに、やはり農産物との関わりが非常に大事ではないかと思っています。よく山形の有名なものの中に「いも煮」があります。羽黒は里芋の産地でもありますので一年中あります。そんなことで、いも煮をお通しみたいに出していくとか。それから、農産物の中でアスパラガスだとかブルーベリーだとかだだちや豆だとか、いろんな食材がありますので、それらを使用した商品の開発も非常に大事ではないかと思っていますし、あそこに行ったらあれがおいしかったと印象に残るようなものがぜひ一つ必要ではないかと、当然庄内柿もあわせてですが、そんな食材を利用したメニューの開発に力を入れたらどうかと思います。

それから、また話しは変わりますが、誘客について、出羽三山だとか映画村だとかは既成の建物や行事などがいろいろあってお客さんが来るわけですが、また新たなイベントをそれに合わせた形というか、神社は神社の行事としてとても大事なものだと思えますが、こちらから誘客を仕掛けるという意味で、様々なイベントも必要なのではないかと思います。羽黒にも観光協会というものがあるわけですが、それらの動きが私には強烈には伝わってこないものですから、それらの活動も少しお知らせいただければと思いますし、最近ラジオなどを聞きますと、うちのほうに来てくださいといろいろな仕掛けをしながらイベントをやっている状況もありますので、羽黒地域も夏は神社も含めていろいろなイベントがあるわけですが、冬になると途端に、少ないと言うか、何もないと言うか、1年を通して羽黒というものを呼びかけしていくと、客層もいろいろと違ってくると思うので、そういったことが必要ではないかと思っています。

いろいろお話しましたが、特に食について掘り下げて有名になるようなものをぜひ研究していただきたいと思っています。

(斎藤一委員)

二点ばかり、まず一つは観光の受け入れ実態調査に関してと、それから本間さんから食の件が出ましたのでその件と二つ。

一つ目のこの調査の仕方と言いますか、実は先日、支所長の講話を伺う機会がありまして、観光客の観光収入の額がえらく大きな数字になっていましたので、疑問に思ったのですが、アンケート調査の結果で、問5、問6のところに「少なくとも羽黒に1泊する日程で訪れる観光客がほとんどであり」という書かれ方をしていますが、総体の数に比べると宿泊の数というのはそれこそ数パーセントにしかならないはずなんです。アンケートをとったところに休暇村と二つ旅館が入っているのでそのようになったと思われるのですが、

その結果60万人に7千くらいでしたか、一人あたりの単価、1万8百円でしたか、をかけて、えらい数字になっているなど見ていたものですから、この観光というものはどうも実態として数字に表すことができない部分の収入が結構あるはずなんです。農業収入や工業収入だと生産額でわかりますから、何十億、何百億とかとやっていますが、観光収入に関してはそういうデータがほとんど出てこない。例えば、全国の観光動態調査をみましても、山形県の観光入り込み客が4千万といった数字出ていますけども、あれなんかは5分の1から10分の1ぐらいになっていると思うんです。それを基にして、対策を立てるといいうことになるので非常に誤差がありますので、そのデータの取り方をもう少し気をつけてもらいたい。アンケートを取らないと当然受け入れの態勢を整えられないわけですので、お客さんの声を聞くのは良いのですが、観光客としてのアンケートを取るときに、その宿泊施設3軒と町の施設1軒で取るのでは、そこに来たお客さんが対象ですから当然偏ってくるわけです。これをもう少し気をつけて取ってもらいたい。それで、それをベースにして今後の方策を立ててもらいたいというのが、一つ要望です。

それから、食の部分でただ今本間さんから地域に特化した食を出してリピーターを、というお話しがございました。当然の話として、今回、沖縄料理と加賀料理と羽黒の精進料理がパリに行くわけですが、これは、絶好の機会だと思うんです。世界に羽黒山の食をアピールする。当然、食だけではなくて出羽三山の文化も一緒に持って行ってパリで宣伝してくるわけですが、そのへんの受け入れを、民間の宿坊さんはそれぞれで自分のところの精進料理を出しているわけですし、出羽三山神社でも出しております。精進料理と称しているんなかたちで出していますが、ある程度は、いらしたお客さんにいつでも、何度いらしても出せるような体制を、民間を巻き込んで整えていくことが必要だと思います。表に出て宣伝したけれども、来てみたら実態が全然なっていないということになってしまいますので、そのへんを十分気をつけて今後展開していただきたいと思います。私も観光協会の一員ですので、観光協会も当然責任がありますし、本間さんから指摘ありましたように、観光協会何してんだと言われると、こういう形でやっていますというものが歴然と出てこないという悔しさもありますが、努力はしているつもりですので、そのへんもあわせてお願いしたいと思います。

(佐藤次長)

鶴岡の観光課にいたときの記憶ですけれども、確かに斎藤委員がおっしゃられたように山形県内の観光客は、延べで約4千万人という数字が出ています。これは各観光施設でカウントした数字を足した数字でありますので、同じ人があちこちでカウントされることがあるということを考えると、確かに実際の純粋な数字ではないと思います。それと、観光客が一人当たりお金をいくら落としているのかということでは、確か平成15年頃の数字では、交通機関の料金を含めないで、県外客だと一人3万弱ぐらいの金額だったと思います。県内の日帰り客については、1万円に満たない9千円ぐらいの数字が出たはずですよ。

(五十嵐室長)

庄内映画村オープンセットに来ている人の動向が見えてこないということですが、これからの観光周遊といった面から分析する上でも大切なことだと思いますので、今後調査していく必要があろうかと思えます。

羽黒町観光協会の動きですが、具体的な事業としては、一昨年は「丑歳御縁年」、今年は「卯年御縁年」を迎えますが、観光協会が中心になって御縁年の記念事業や観光ガイドの充実などを通し、誘客活動を行っています。それから、イベントに関しましては、松ヶ岡のクラフトフェアや石段マラソン全国大会、いでは文化記念館の講演会に対して支援しております。

今後、食の関係につきましても、観光協会が協力を得ながら一体となって進めていくことになろうかと思えます。

(斎藤一委員)

今、観光室長からもお話しありましたが、本間委員から叱咤激励を受けましたので、一つ皆さんにお願いしたいと思えます。観光協会で観光に関して話しをする場を作ると、鳥居より上の人間しか出てこないんです。ぜひ、市民と言うとかなり広がりますが、旧羽黒地域の方々、手向以外の方々にも観光に関してもっと関心を持っていただき、いろんな意見を出していただきたいと思っておりますので、ご協力のほどよろしくお願ひします。

(天野俊秀委員)

いろんなアンケートの回答あったということですが、その中で食べ物のことですね、前回の審議会では泊まる場所がないと言っていたのですが、実は私も羽黒に20年住んでいますけれども、例えば知り合いが来て、都会から来て、春だと孟宗汁ですか、秋だとも煮、それから冬だと寒鰯汁。そういうこの伝統文化的な郷土料理と言いましょか、それらをいつでも食べられるところはどこ？と聞かれると、ふっと困ってしまいます。家で作ったほうが早いかと思ったり。実は、私どもも夫婦でたまに車で秋田とか、新潟、福島の方にふらっと散歩がてらドライブしに行くんですが、そのとき「お昼どうする？」と言ったら、「このあたりの郷土料理、なんかないの?」「どっか食べるとこないの?」とよく女房から言われるんです。豪華な肉料理とか、フランス料理、イタリア料理、そういったものはどこにでもあると言ったら失礼ですが、やはり郷土料理というのは、来る人たちの7割が60、50、70代ですし、そういう人たちだと、違った地域に来た一番の楽しみは、舌、味じゃないかなと。その味ということで皆さんにお聞きしたいのですが、そういう季節々々の郷土料理というのは、羽黒ではどこに行けば食べさせてもらえるのでしょうか。精進料理は斎館に行けばあるとわかっているのですが、それ以外では必ずここではやっているよというところがあるのでしょうか。そういう案内というか、地元で20年住ん

でいてもよくわかっていない人がここにいるということは、もっと食べ物でもいろんなところで、ここに行けばこれがあるよ、こういう物も食べられるよ、というような、市民や地域の人が案内できるような、そういう情報というのがないんじゃないかなという気がします。季節のイベントはあるんだけど、寒鱈まつりなんてあるけど、それに来なかったら食べられないのかということになってしまう。旅館に泊まれば出るよではなくて、昼とかいつでも、その風土や地域性があるような食べ物を食べられる場所、一箇所ではなくリストというものがないのだろうか、という気がします。

(斎藤一委員)

実はあるんです。商工会のほうで、各地域で季節のものを食べさせようというのをやっています、それに参加しているのが羽黒地域、櫛引、朝日、藤島、それぞれの地域で、全部で20軒ぐらいでしたか、ちょっと軒数忘れましたが、ありますので、ぜひ商工会からの情報も得てみてください。まだまだそんなに普及しているというものでもないんですが、結構評判は良いみたいですので。ただ、これは事前の申込みが必要なんですよ。飛び込みでっていうわけにはいきませんので。

(林茂生委員)

先ほど斎藤さんからありましたが、羽黒山の精進料理をパリでというお話を新聞でもしておりますし、これは良いチャンスだなと思っておりました。ただ、あれは齋館まで行かないとなかなか本格的な精進料理はいただけない。交通も大変です。やっぱりそれを、正式にいただくということであれば当然そこはいいわけですが、もっと手近なところにB級の精進料理をやるような工夫はできないかと。そこで味わってみて、これはおいしいぞなれば本格的なものを食べてみるかと、そういうふうなことにもなるのではないかなと思います。そんなことで、今手向地域では、土岐さんの多聞館さんもありますし、羽黒館さんもありますし、宿坊さんでも当然山菜料理をそれぞれお客さんに出しているわけですが、そこそこで作る味とか品物とかそういったものがバラバラではなくて、例えば、ご飯はつや姫、汁物はたけのこ汁、山菜、わらび、ぜんまい、きのこ。ごま豆腐も入るようですが、こんなところがやはり旅行に来る方々には大変好評なのではないかなと思います。先ほど説明いただきましたアンケートの宿坊ところで、「夕食後に気付いたのですが、ごま豆腐が注文できず残念だ」というようなことも載っておりました。そんなことで、やはりごま豆腐は、羽黒山の独特の味もあるわけですし、月山のたけのこ汁をセットに、5品ぐらいでいいと思うのですが、それにちょっとそばでも付けばいいかなと思うのですが、そんなセットメニューを考えることができないかと。そして、それに対して、随神門の前にはやはりお客さんが集まるわけですから、石井商店、それから大川商店、富樫商店、できるかはわかりませんが、このへんの人たちと、それから宿坊の方々、多聞館さん、羽黒館さ

ん、このへんの方々6, 7名で研究していただいて、同じものでお客さまを接待してはどうか。「羽黒御膳」ぐらいに名前をつけたら良いと思うのですが。そんなことで、まずミニのこういう食事を考えていただけないかなと思っております。商工会さんもそのへんは考えていると思うのですが、これがまず一つです。

それから、もう一つは駐車場。石井商店の前に大きくできましたが、トイレが真ん中にあるんです。お客さんを連れて行って、石井商店で食事をすると、すぐ前がトイレになるので、あそこを竹か何かで、道路のほうから見えないようにうまく囲うような方法はないかなと思います。そしてできれば、夏の間には屋台村ぐらいのものを、期間を限定してやって、集客をはかる方法もあるのではないかなと思います。

それからもう一つは、いでは文化記念館の活用です。あそこは、入館料が確か4百円でしたか、中には良い物もあるんでしょうが、なかなか入館する方が増えてこない。観光客が来て、駐車場のすぐ前にあるのは何だろうと行ってみた場合、4百円はちょっと高いなと言って、引き返す人が結構いるので、あそこの入館料をもう少し安くして、もっと多くの人に入ってもらえれば、羽黒の良さ、歴史的なものもいっぱいあるわけですから、なんとかそのような方法を市にお願いできないかなと思っています。

最後にもう一つ、歴史ある施設ということでは、ここに黄金堂が入っておりません。黄金堂は歴史ある建物で、中には以前仏教で栄えた羽黒山の門前、随神門にありました仁王様がちゃんと移されてある。なかなかそれを知っている人が少ない。中のすばらしいものを見ることによって、羽黒の仏教から神に変わった歴史的な手向のあり方を、歴史に興味のある方であればまたもう一回、二回と来てくれることがあるのではないかと思います。昨年、庄内で三十三観音巡りがありました。私も参加しまして、庄内全部回りましたけども、やっぱり地元ひいきではないのですが、ものすごく歴史のある黄金堂なんです。このへんを一つ観光のポイントの中に大きく取り上げていただけると今年の一つの目玉になるのではないかなと思います。

(太谷眞一委員)

私は、観光施設までの誘導、案内板の件で、先ほど高田さんがおっしゃる通り、間違っに入って来るといこともありますが、手向のバイパスと手向の村中に入るところの Y 字路のところですか。あそこに前、農協のガソリンスタンドがありました。あのガソリンスタンドが今閉鎖しております。あの場所に私は、少し大きな誘導看板を作ったらどうかと思います。そこからはまっすぐ下に鳥居が見えますし、あの場所を鶴岡市のほうから購入していただいて、駐車場と遊ぶ場所、また眺める展望台などをつくってはどうかと思います。今はバイパスのほうが、道路が良いので7割ぐらいの人は手向のほうに入らないで、まっすぐ行ってしまおうと思います。それをあそこに案内板とか何かあれば、きっと手向の宿坊街のほうに入って行くのではないかと思います。

それから、少し個人的な話になるかと思いますが、宿坊街の景観であります「茅葺屋根」

の件ですけれども、前は相当あったのですが、現在では片手もなくなったと思います。家主から話しを伺ってみますと、維持するのが大変だと言っておりました。それは、茅葺にする茅がない、茅を刈りにいく人手も少ない。また、やはり維持するのにお金がかかるということで、そういうことを維持するためにも、茅葺、茅替えに対して補助するといったことができないものかということをお聞きしたいと思います。

(佐藤次長)

茅葺というと、四年ぐらい前に、出羽三山魅力発信協議会というかつて世界遺産の登録を目指していた団体で白川郷を視察しました。そのとき、**30** 何軒かある茅葺屋根、大変見事なそういう家並みが続いていたのですが、あそこは確か補助ということではなくて、「結」というグループを作って、地元の人が総出で一年に一軒ずつぐらい屋根の葺き替えを手伝うというシステムができていると聞きました。

実は、今、手向の宿坊街でこれから街並み景観の整備をやろうといった計画を持っているのですが、その中で果たして整備ができるかどうか、それらについては検討してみたいと思っています。

(五十嵐室長)

先ほどの林委員から出されたお話で、出羽三山の精進料理をパリで披露するというのは、国際交流基金が全国から募集した中で、金沢の加賀料理と沖縄の琉球料理、それから出羽三山の精進料理の三つが選ばれ、それぞれパリでデモンストレーションをするというものです。精進料理を作って皆さんに食べさせる、料理教室をするといったことがメインになるのですが、その他にも山伏文化と鶴岡市をパリで紹介してくるというものです。日程としましては、6月中頃、**10** 日間から二週間、行ってくるという予定になっております。それから、せっかくの機会ですので、今後観光協会と協力しながら、地元で精進料理を見直すとか、あるいはそれを商品化しながら国内からお客さんを呼ぶといった企画も行っていきたいと考えています。

それから、トイレの修景や駐車場の活用についてですが、これについては今後検討していかなければならないと考えています。

また、いでは文化記念館の活用についてですが、入館料が4百円というトレイだけで帰るといったこともありますので、入館料の値下げといったことも検討していく必要があると考えております。ただ、そのためには条例改正の手続きや他の施設との兼ね合いもありますので、今ここですぐとはいきませんが検討していきたいと思っています。

次に、黄金堂の件につきましては、今回の資料では、宿坊街の中に入っているという考えでしたが、実際大切な観光資源ということでもありますので、宿坊街、黄金堂もやはり表記しながら、調査の報告書の中には入れていきたいと思っています。

それから、旧手向 **JA** ガソリンスタンド跡地の有効活用につきましては、相手もあること

ですので、意見としてお聞きしたいと思います。

(寒河江健二会長)

今日は松ヶ岡についての意見はまだ出ていませんが、やっぱり松ヶ岡の春の桜並木は見事ですし、クラフトフェアも車が止められないぐらいにいっぱい人が集まって、何万人かになりますけども、やっぱり来た方に対しての接待、お金をいかに落としてもらうかということで、農産物や、食べ物、そばとかいろいろあると思いますが、山田さん、そのへん良い案などありませんか。

(山田鉄哉委員)

ここ何年か前から毎年クラフトフェアや桜まつりをやっているわけですが、近頃は車の駐車もだいぶ慣れてきて、なじみの人たちだと、選果場の大きい駐車場や役場の駐車場に置いてシャトルバスを利用する頻度は随分上がって、去年なんかはシャトルバスが足りないという感じでした。村としても市道には車を駐車させないようにして、交通整理も、前だと老人クラブの人たちに交通整理をお願いしていたのですが、なかなか素人の交通整理というのは、なんかごしゃいだよな感じになったりするので、去年あたりも警備保障をお願いして、当たり障りなく上手にやってくれるので、車の塩梅は随分よくなったのかなぁと思います。

今年も4月の何日ですかやる予定ではおりますが、桜の芽がウソに食べられてしまって、下に芽がいっぱい落ちていたので、桜がどのくらい咲いてくれるのが心配なところです。また、うちのほうの婦人の方々もその時はそれなりに、直売だということでこんにやくを売ったり色々やっているようですが、まだまだ便乗者が足りないという感じです。

また、ちょうど時期がだんだん田起こしの季節になるので、集落としての受け入れについては、観光客が来る道路にトラクターの泥が落ちていたり、駐車している車がトラクターの邪魔になると言ってみたりして、時期的に相反するところもあってなかなかうまくいかないなぁと思ったりしています。

また、先ほどから色々観光のお話がありますが、羽黒山の知識なり、そういったことはある程度勉強した人たちだとそれなりに楽しめるけども、いでは文化記念館の入場者の関係もあるわけですが、やはり年代的な違いがあつてか、若い人は特に目でおもしろいかどうかを判断するところが多々あるものですから、若者から年寄りまでみんなを網羅した観光というのはなかなか難しいなぁと。精進料理なんかも食べたことのある人は改めて食べて、懐かしいとかおいしいとか評価してくれるわけですが、飲み物と言えばココアコーラで育って、百合の玉なんて食べたこともない人は、これなんだ、という評価しかないと思いますので、どのへんの年代の人たちをターゲットにするということは、できないのかもしれないが絞り込みも必要なのかなと思います。

それから、滞在時間を長くすればするほど、お金がおちるということになると思います

ので、滞在時間を長くするにはどうしたらいいのか。観光客も自分の車で走るようになると、高速がタダのところが増えたり、安かったりということで、来るのも早ければ帰るのも早いというような感じもありますので、戻るのを遅くするために何とか知恵を絞っていかなければならないのかなと考えております。

(佐藤次長)

ただ今、松ヶ岡についてご紹介いただきましたけども、予定されている時間までもう少しですので、映画村や映画の製作に関する事で、例えば映画村にこれから期待することとか、映画を鶴岡や羽黒で撮ることについてこれからやってもらいたいことなど、具体的にあるとすれば最後のところでお願いできればありがたいと思います。

(寒河江健二会長)

いま「姥捨山」でしたか、撮影終わったかわかりませんが、相当寒い中で進んでいるというようなことを聞いておりますし、皆さんから一つ意見をお願いしたいと思います。

やっぱり映画を見ますと一回は行ってみたいという気持ちになります。実際にあそこに行ってみては、あまり大きさや広さは感じなかったのですが、「十三人の刺客」を見たときは、撮影によっていかに小さいところを大きく見せるかとか、撮る角度などいろいろ演出のすばらしさというのがあるんだと思いました。結構そういうことで、県外の方も車で来ているみたいです。

(山田鉄哉委員)

2月いっぱい撮影をやる予定だそうですけど、エキストラがうちのほうの大きい駐車場に、4時過ぎに集合だとか、5時集合だとか、6時のときもありました。そうすると、その駐車場にエキストラの車がバラバラに来るわけですが、その雪どけを私にやれということでやっておりまして、監督の意向でその日のうちに撮影したいというのがあると、本当は日中で終わる予定のものが、夜中の3時頃に終わったとか、そんなこともあります。

中には今まで「おくりびと」だとか、様々な映画にエキストラで出た人たちも、一回きりのつもりでオーディションに臨んでいたのが、今度、ばばちゃんたちの村を作って、そこで踊りを踊ったりということを依頼されたりして、同じ人が何回も出演しなければならないということで、エキストラを断ったという人もいるようですが、毎回、秋田とか、山形、仙台からといったエキストラもいるようで、結構順調に進んでいるようです。

(佐藤次長)

役者さんとか、撮影している人は、どこに泊まっているのですか。

(山田鉄哉委員)

大進坊だとか、そのクラスクラスで第一ホテルだとか、五番館とか様々なようでした。1月10日に浅丘ルリ子が来たときに、生まれて一年も経たない子どもを抱えたお母さんたちが5, 6人来た。これは、山に捨てられたばばちゃんたちが、赤ちゃんを抱くのだろうかと思ったのですが、そうではなくて、ばばちゃんが捨てられるのを家族が見送る時の赤ん坊だという話を聞きました。どういう映画ができるか、お楽しみにというところですか。

(天野俊秀委員)

映画村を観光資源としてどう活かすかというのがあったのですが、羽黒へ引っ越してきたときも感じたのですが、羽黒の観光といたら出羽三山、全て出羽三山神社におんぶするような形でしたし、今度は、映画村が自然発生的に、一部の方々の努力でわーっと盛り上がってくると、今度はそれにぶらさがろうという感じですが、今は宿坊も泊まり客が減っていると聞きますし、宗教的なことでは、今の20代の若者たちが、あと50年生きて70代になったとき、宗教観って、いったいどうなっているのだろうか考えると、出羽三山神社もただの歴史記念館みたいなものとしてしか見てくれないのだろうか。要するに、もちろん出羽三山神社も映画村もその時の話題、または今盛んだからということで、当然この地域にあるものですから、利用とか協力はしていくことになるのですが、これからは、他にもたくさん羽黒の魅力を作って、映画村と出羽三山をプラスアルファにするぐらいいい考え方をしていけないといけないのではないかと思います。なにかにすがっていたら、その人気なくなったら一緒にこけてしまうようでは困るので、庄内の羽黒地域というのは、たくさん魅力のあるところで、その中に出羽三山があり映画村もあるんだという、そういう考え方が必要なのではないかと思います。

(本間信一委員)

映画村のお話しですけれども、地域的には私のほうのところであって、盛んに映画を撮るときなどは朝の6時ごろにマイクロバスが上ったりして、朝は早いし、帰りは遅いというか。でも、やっぱり地域としての関わりがどうなのかと思ったとき、エキストラなんかも中央公民館でオーディションをやったという話しでしたし、いろんな視点の中で、私は先ほどから食ということで話しをしているのですが、時間が長くなれば当然、食べ物、弁当などを食べていると思うんです。そうした時に、羽黒地域の店がどれくらい関係しているのか。滞在が長くなればなるほど弁当などの食べものがないといけないから、それは非常に大きく直接地元に関係することだと思っています。入札などがあるのかどうかわかりませんが、結構鶴岡から、あるいは平田牧場も上ってくるようですが、羽黒との関わりとなった時に今のところちょっと関係が薄いかなと感じています。どこまで今の盛り上がりや人気が続くのかということと不安なところもありますが、それがなくなれば結局全部なくなるわけなので、なくならないようにする支援、元気づけていくといった支援の仕方もある必要があると思いますし、具体的にどうかといえればちょっと考えが浮かばないので

すが、積極的に関わっていければいいのかなと思います。

(寒河江健二会長)

事務局のほうからは、手向宿坊街の景観や観光周遊ルートについての協議もと言われたのですが失礼しました。ただ、羽黒山を中心とした観光地ということで、映画村、松ヶ岡、玉川寺、高寺八講とかいろいろありますけれども、やっぱり基本的には鶴岡市ですので、羽黒だけどうこうというのではなくて、致道館とか藤沢周平だとか、そしてちょっと行けば日本海の夕陽の景観だとか、いろいろ総合的なルートというものをわかりやすく作っていただいて、その中から来られた方が自分はどこに行きたいと選択できるような観光地作りといいたいでしょうか、時間的には皆々回れないということもあるので、やっぱり藤沢周平は行きたいとか、そういう広域的な流れで、羽黒に来た方にもそっちに寄ってもらうように進めてもらえればと思います。

今日皆さんから出された意見は、事務局のほうで集約しまして会議録を作るといいますし、また同じテーマで引き続き審議会を続けるということですのでよろしくお願いします。

(2) その他

発言なし。

5 閉 会 (16時00分) 佐藤次長